



題字 井口 文章
再刊 第523号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2026

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面希望溢れる教育実習生を紹介!
空手道部 全国大会進出決定!
二面春の錦城千里実態調査
あなたは安全に自転車に乗っていますか?

夢に向かう先輩方の姿

8名の教育実習生 紹介

5月25日(月)から6月13日(土)までの3週間、大学生8名が母校で教育実習を行っている。彼らに今の意気込みを伺った。積極的に話しかけてみよう!

赤司 凛先生(英語科)

英語を担当する赤司先生。高3のときの担任だった石井先生に憧れて教師を目指したという。錦城では吹奏楽部に所属。クラリネットを吹いている。今は週七で働いている。今も大変だけれども、勉強と両立するために、「親友と毎朝早く来て自習しています」と話してくれた。

川 千智先生(国語科)

言語文化を担当する川千智先生。教師を志している理由は、高校時代にコロナ禍で制限されたなかでも学生生活を全力で楽しむことができた。そのため、今の高校生活をサ

杉山 実咲先生(国語科)

言語文化を担当する杉山先生。教師の夢を抱いたのは小学生の頃。勉強や学校生活など色々な場面で生徒のことを思った行動ができる教師を目指しているという。

平田 莉奈先生(国語科)

古典を担当する平田先生。平田先生が教師になろうと思ったきっかけは、中学校の担任の先生。その先生の国語の授業はグループワークで、楽しかったそう。

尾崎 智美先生(社会科)

歴史総合を担当する尾崎先生。歴史の面白さを伝えたいと思い、先生を志したそう。今回の教育実習で、どうしたら歴史の面白さが伝わるかを知りたいと語った。

酒井 愛海先生(社会科)

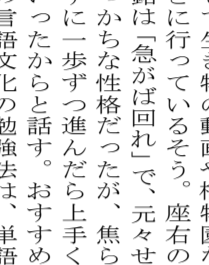
世界史を担当する酒井先生。先生は吹奏楽部で部長を務めていたという。元々先生になりたかったこと、錦城で担任だった石井先生の生徒一人一人の思いに憧れたことがきっかけで、教師を志したそう。

田代 椋詢先生(理科)

化学基礎を担当する田代先生。今回の教育実習を通じて授業はもう、生徒への前向きな声掛けもできるようになりたいのだという。中学時代の先生がきっかけで、生徒



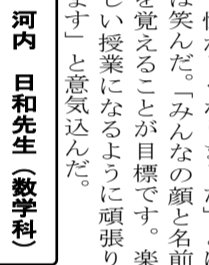
EVENTEENとILLIITだと笑顔で話してくれた。錦城生に向けて「とても忙しいけど、今しかない青春を一杯楽しんでほしいです」とメッセージを送ってくれた。



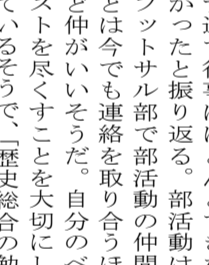
ポットしたいからだと語る。高校時代、生物部の爬虫類班に所属。トカゲやヘビを見ているのが好きで、趣味として生き物の動画や植物園などに訪れているそう。座右の銘は「急がば回れ」で、焦らずに少しずつ進んだら上手くいったからと話す。おすすめの言語文化の勉強法は、単語は紙に書いて覚えることだとい



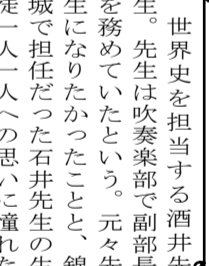
ごしやすい雰囲気は変わらないうまく話してくれた。今回の実習では、授業を少しでも楽しんでほしいと笑顔で意気込んだ。



だなど感じたそう。そして、「自分の高校時代を思い出して懐かしくなりました」とほほえんだ。「みんなの顔と名前を覚えることが目標です。楽しい授業になるように頑張ります」と意気込んだ。



高校時代、入学当初はコロナ禍で行事はほとんどできなかったと振り返る。部活動はフットサル部で部活動の仲間とは今でも連絡を取り合うほど仲がいいそう。自分のベストを尽くすことを大切にしているそう。歴史総合の勉強では授業に集中して、覚え



先生の思う世界史の魅力は、出来事の中に理由と繋がりがあってストーリーがあること。それが今の話や社会に直結していることもあるのが面白いそう。錦城時代は本音がやらないといけないことが多くて忙しかったけど、自信をもって部活をやっていたそう。



の進路に親身になって相談する教師の姿に惹かれ、教師を志したそう。教師は、誰かの将来を作ることでできるすごい職業だと語る。

探究の見通し深まる

1・3年生生合同探究

5月20日(水)の6限目に1年生と3年生合同の探究が行われ、グループに分けられた1年生はペアになったグループの3年生に探究の経験を教わった。3年生が昨年度に書いた論文をもとに、探究の経緯や内容をグループで共有。時間が許す限りグループを組み替え、行われた。この探究を通して、井上琥太郎さん(1K)は、探究のテーマの決め方とか大まかな流れとかを知ることができて楽



今までの経験を伝える

しかったそう。「自分のやりたいことを日々考え、探究を楽しみました」と話した。井上さんは、歴史が好きだとい、自分の好きな歴史という分野で何か関連付けて探究をできた方がいいと教えてくれた。3年生の話を聞いて探究の全体像を掴む、いい時間になったようだ。(旭)

グラウンド工事本格化!!



現在、グラウンドの工事が進められている。部室棟からの移動も始まる予定だ。また、部活動と授業を除いて、グラウンドには立ち入ることができないので、要注意!完成が待ちきれないね!



「総合優勝を果たしたことが記憶に残っています」と微笑む。錦城生に「小テストなどが忙しい中でも、球技大会などの行事や部活を楽しんで一生懸命打ち込んでほしいです」と話してくれた。(豊)

むらさき草

高校生になり、部活や委員会と人に関わる機会が格段に増えた。それに伴い、思い知らされた自分のコミュニケーション不足。特に先輩ができてからは「一言ええよかった」「あの反応は冷たかったかな」と毎日脳内反省会だった。小さい時から周りの目を気にしていた。小学生の時、習い事に遅刻して教室に入るときみんなの視線が嫌で、「行きたくない!」と女関で泣きわめいていた。ちょっとした黒歴史である。成長するにつれて少しは人生に慣れてきた。とはいえ、しんどいときはある。そんな時におすすりめなの、自分を落ち着かせるための言葉を持っておくことだ。よく「人生8割黒歴史」と頭の中で唱えている。自分で考えたのか誰かの受け売りかわからないが、恥ずかしい失敗をして穴に埋まりたくなつた時に「人生8割くらい黒歴史なんだから、こういうときもあるよね!」と言いつつ聞かせて、何とか日々を生き抜いてきた。そうしているうちにだんだん「そういう日もあるか」と受け流したり、「人は私を考えているより私を気にしていない」と思えるようになってきたりする。自分の心を落ち着かせてくれる言葉があったことに、とても助けられたと思う。国民栄誉賞を受賞している車いすテニスの国枝慎吾選手は「俺は最強だ!」という言葉が毎朝鏡の前で唱えたり、シールにラケットに貼ったりして、弱気になった時もメンタルを安定させてきたという(スポーツ応援サイト GROWING UP)。スポーツに「毛インタビューより参照」▼たった一言でも、自分を支えてくれる言葉があると、少し生きやすくなる気がする。皆も、何か悩みや不安があるときに自分の背中を押してくれる、ちょっとした言葉を探してみよう。(豊)

生物部 ウズラの里親大募集中! 部室においでよ!



生物部では、現在部室で暮らしているウズラ3羽の里親になってくれる人を募集中。写真は左からシロジ、クロジ、ニナ。飼育セットは生物部で用意があり、ペットシート、餌も二週間分までは用意があるそう。よく鳴いて元気いっぱいシロジ。黒くて可愛いのが特徴のクロジ。大人しくて愛らしいのがニナ。「最初の準備はこちらですとあります」とのこと。ぜひ生物部のウズラ達に会いに行ってみよう! (菊)

こんな乗り方してないよね?

(下) 他者に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しないとダメ。違反すると、反則金は6000円。



(下) 自転車は、並走してはいけません。違反すると、反則金は3000円。



(下) イヤホンをつけて周りの音が聞こえない状態でも運転してはいけません。違反すると、反則金は5000円。



参考警視庁
HP <https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycl/pdf/rulebook.pdf>

編集後記

午前8時頃、自転車で通学中の私は、車との接触事故を起こしてしまった。自転車側の信号が青に変わったので横断歩道を渡っていたら、左折する車と衝突。幸い私に怪我はなく、自転車も多少ハンドルが曲がったくらいです。だが、この時の私は気が動転していたのか事後報告をしなかった。ドライバーに「大丈夫?」と聞かれ、「大丈夫です」と答えてその場を離れてしまったのだ。最終的にドライバーとは連絡がつかず、泣き寝入りした。私の自転車は今もハンドルが曲がっているままである。実は車とぶつかる直前、私は車が停まってくれるだろうという勝手な臆測で停まらなかった。いつでも停まれたはずなのに気づいたときにはすでに遅かった。今回は相手が車だったから良いものが、おばあちゃんだったら本当に取り返しがつかない。青切符うんぬんではなく、自転車の乗り方を見直すべきだった。万が一では遅いことを、自転車が人の命を簡単に奪ってしまうものだという肝に命じておきたいと思う。(菊)

また、今回の実験やアンケートを通し、自分たちが思っているよりもスピードを出して今まで通学していたり、危険と思わずに危ない運転をしていたりしたことに気がつかされた。青切符が導入されたのも、より注意を払う人が増えるように。私は自転車通学をこれからもしていく。誰かを傷つけてしまう前に、自分の行動を変えていきたい。(桃)

(下) 傘さし運転をしてはいけません。違反すると、反則金は5000円。



(上) 走行中携帯電話を使って通話したり、画面を見たりしてはいけません。違反すると、反則金は最高額の1万2000円。



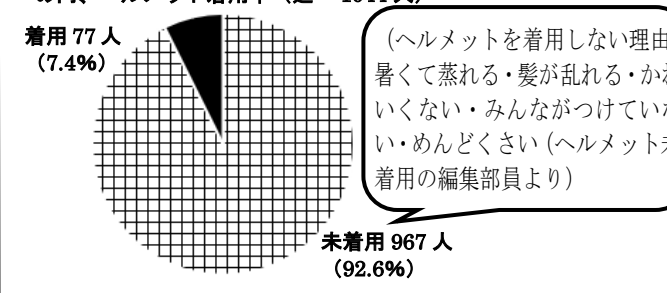
(上) 二人乗りをしてはいけません。違反すると、反則金は3000円。

今すぐチェック! 危ない走行方法



ヘルメットを着用している生徒は、どのくらいいるのかな??

編集部が3日間校門と生徒駐輪場で調査した、自転車通学者の内、ヘルメット着用率(延べ1044人)



左側通行	ヘルメット着用
イヤホンの扱い	極力車道を走るようにしている
歩道での走行スピード	時間に余裕を持って自転車に乗る
一時停止で止まる	並走しないようにする
無理な追い越しはしない	ライトの電池切れに注意している
並走しない	車と同じ分類だという意識をもつ
ハンドサイン	標識、停止線などをよく見る
逆走しない	歩行者を気を付ける

(左) 自転車に乗るときに気を付けるようになったこと
小平警察署捜査係の方にもお話を伺った。そもそも青切符が導入されたのは、あまりにも事故や交通違反が多かったからだという。導入されてまだまもないため、事故が減ったかどうか詳しい情報は分からない。そうだが、高校生で青切符を切られやすいのは、「ながらスマホ」、「信号無視」、「一時停止」などだと話す。なかでもながらスマホは非常に危険で、青切符制度での罰金も重い。また、横断歩道や裏路地の交差点などでは事故が起こりやすく、スピードの調整や常にブレーキを掛けられるように予測運転、一時停止に心掛けてほしいと語る。高校生に向け「自転車に乗るときは常に注意して、歩行者との事故では簡単に命を奪ってしまうことも忘れてほしいです。それと、事故にあっただけです。それと、事故にあっただけです」と話してくれた。

あなたのスピードはスグ停まれる?



(上) 基準位置から3m地点で停まることができた様子。普段のスピードで走行した時、想像していたよりも停まるまでが長くて驚いた。

編集部員が実験してみました!
普段自転車通学をしている編集部員3名(菊、蓮、桃)がこの調査に挑戦。普段通りに走る速さを計ってみたところ、それぞれ下の表の通りだった。「停まって!」と声をかけて何メートルで停まることができるのか実測してみた結果、全員が2mを超えた。普段の登校の様子から、蓮と桃の速度は平均的な錦城生のものと考えられる。そのことから、多くの錦城生は制動距離が約2mであり、目安の制動距離1m以内という「直ちに停まれる速度」を超えていると推測できる。つまり、この速度では、歩道を安全に走ることができない。菊はスポーツタイプの自転車に乗っており、普段からかなり飛ばす。時速30km/hでは絶対に急には停まらないことがわかった。歩道を徐行する目安は、1mで停まれる速さである10km/h。歩道を走る時には、いつもよりもゆっくりとした速度を心がけたい。

速度表示もチェック!
錦城の近くの新小金井街道や新青梅街道は制限速度50km/hだ。しかし、新青梅街道から一本北の道に入ると速度制限は20km/h。小平駅周辺の道にも30km/hの標識が多く見られた。車道を走る際は、制限速度を守ることも命を守るために必要だ。安全に走行するために、標識に書かれている速度表示もチェックしよう!

自転車歩道で通行する際は、「直ちに停止することができるような速度で通行」しなければなりません(警視庁HPより)。普段の私たちのスピードでは、停まるまでどれだけの距離を走るのかを調べてみた。結果は全員2mを超えて、普段の速さでは歩道を走るには危険だとわかった。

普段の速度	2回の平均
菊 30km/h	5.75m
蓮 12km/h	2m
桃 15km/h	3.25m



菊の速度では、5mを超えても停まることができなかった。怖さを実感するために、5m地点に立っていた編集部員は、「相手がブレーキをかけた後も、自分がいた場所に猛スピードで突っ込む菊の自転車があって、もし自分が避けられなかったら大変な自転車事故になっただろうな」と怖がった。

錦城生 施行2カ月チャリ現状調査

「自転車に乗るのが怖い」の声も

2026年4月1日より、16歳以上を対象として、自転車にも「交通反則通告制度(青切符)」が適用された(警視庁HPより)。適用されて2カ月経った今、錦城生の現状を知るべくアンケートを行った。

「警官に注意された」2名も
5月上旬にクラスルームにて配信した青切符に関するアンケートに、1年生100名、2年生60名、3年生50名、計210名の回答が集まった。210名の回答を集めた。「一時停止を守ると、毎日と回答した人が一番多く32.4%、「ほぼ毎日」と合わせて59.5%に上った。また、ほとんど乗る機会がないと答えた人は約20%だった。「青切符制度が始まってから、警官に注意されたり、青切符を切られたりしましたか」という質問をしたところ、アンケートを回答した210名のうち「警官に注意された」と回答したのが2名、「青切符を切られた」と回答した人が101人がヘルメットを「持っていない」と答えた。また、ヘルメット

「青切符切られた」1名(新聞調べ)

ヘルメット着用率74%
しかし、今回のアンケートでは全校生徒から回答を得られず、登下校をする錦城生を見ると、ヘルメットをしていない人が25%よりも少なく感じられる。そこで5月30日(土)、6月1日(月)、2日(火)の朝8時から8時20分までの20分間、正門と自転車小屋前でヘルメット着用率を調査したところ、着用している生徒を数えた。すると、3日で延べ1044人のうち、ヘルメットを着用していた人は77人。着用率は7.4%。錦城生の着用率はかなり低いとわかった。調査中、登校中の自転車と歩行者が接触してしまいそうな場面が何度も見られた。また、8時以降指定区間では自転車も降りて押す、というのも見えた。自分はまだ16歳以上じゃないから守らなくてもいい、警察官がそばにいないからちょっとぐらいスピードをだしたりしてもいい、ということはない。実際のアンケート回答者は210人。全生徒の青切符を切られた人や警官に注意された人は、実際はもっと多いと思われる。誰かを傷つけないように、まずは自分の心構えを変えて、毎日の自転車通学を続けていこう。

月から自転車に乗る際に気を付けるようになったことを尋ねると、「イヤホンを付けたくないにしている」、「スピードを気にしている」、「一時停止を守ると、毎日と回答した人が一番多く32.4%、「ほぼ毎日」と合わせて59.5%に上った。また、ほとんど乗る機会がないと答えた人は約20%だった。「青切符制度が始まってから、警官に注意されたり、青切符を切られたりしましたか」という質問をしたところ、アンケートを回答した210名のうち「警官に注意された」と回答したのが2名、「青切符を切られた」と回答した人が101人がヘルメットを「持っていない」と答えた。また、ヘルメット